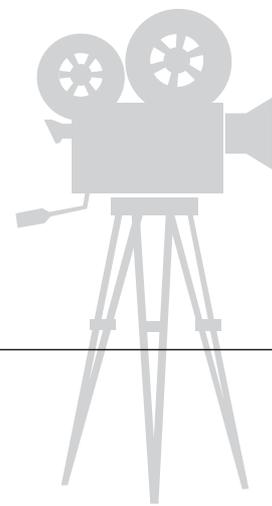




第2部

国・地域別研究

混成アジア映画の現在



過去10年における シンガポールのヒット映画

篠崎 香織

シンガポールでヒットしたシンガポール映画として、過去10年間(2006年から2015年)における興行収入ベスト10を挙げると表1のようになる。

表1の10作品は、いずれも華語と中国系方言を使用し、非エリート層に光を当てる作品となっている。シンガポールでは、華語と中国系方言を主に使用する人たちはしばしば「ハートランダー」と呼ばれ、大衆層に位置付けられる。後述するように統計データでみると、家庭での主要言語が華語または中国系方言である者は全体の半数近くを占めており、こうした層が表1の10作品と言語的に近い関係にあると言える。なお、家庭での主要言語が英語である者でも華人であれば英語と母語を必修とする二言語政策の下で華語を学んでいるし、年長者たちとのやり取りを通じて中国系方言を解する者も多いため、華語と中国系方言の作品

を鑑賞しうる層は全体の半数よりもっと多いと言える。

表1から明らかなことは、ジャック・ネオ(Jack Neo/梁智強)監督作品が興行収入の上位を占めていることである。ネオ監督作品は数多く、その中でも興行収入が大きい作品はシリーズものとなっている。『新兵物語』は2012年以降3作品が制作され、いずれも大ヒットしている。それに続く『お金がない2』と『僕、バカじゃない2』は、1990年代末から2000年代初頭にかけてヒットした『お金がない』と『僕、バカじゃない』の続編である(表2)。『お金がない』の監督はネオではないが、ネオが脚本を手掛け、主演を務めているため、ここではネオ監督作品に準ずるものとして扱う。9位の『笑うほどの恐怖』は3つの物語から成るオムニバスで、物語の1つは『お金がない2』の続編にあたる。

表1 過去10年(2006年~2015年)のシンガポールにおけるシンガポール映画の興行収入上位10位

順位	英語タイトル	華語タイトル	日本公開時邦題 (カッコ内は日本未公開)	シンガ ポールでの 公開時期	監督	興行収入 (シンガ ポールドル)	全体 順位*
1	Ah Boys to Men 2	新兵正伝 2	(新兵物語 2)	2013年2月	ジャック・ネオ	7,895,058	2位
2	Ah Boys to Men 3: Frogmen	新兵正伝 3: 蛙人伝	(新兵物語 3: カエル人間伝)	2015年2月	ジャック・ネオ	7,622,953	7位
3	Ah Boys to Men	新兵正伝	(新兵物語)	2012年11月	ジャック・ネオ	6,214,285	5位
4	Money No Enough 2	錢不够用 2	(お金がない 2)	2008年7月	ジャック・ネオ	5,084,564	4位
5	I Not Stupid Too	小孩不笨 2	(僕、バカじゃない 2)	2006年1月	ジャック・ネオ	4,180,987	3位
6	881	881	881 歌え! パパイヤ	2007年8月	ロイストーン・タン	3,540,000	10位
7	Ah Long Pte Ltd	老師嫁老大	(インストラクター、ボスに嫁ぐ)	2008年2月	ジャック・ネオ	3,173,460	11位
8	Just Follow Law	我在政府部門的日子	(私のお役所時代)	2007年2月	ジャック・ネオ	2,777,400	n.d.
9	Where Got Ghost	吓到笑	(笑うほどの恐怖)	2009年8月	ジャック・ネオ	2,499,412	17位
10	It's a Great Great World	大世界	すばらしき大世界	2011年1月	ケルヴィン・トン	2,450,000	23位

*「全体順位」とは、同年にシンガポールで上映されたすべての映画(海外作品を含む)の中での興行収入の順位。IMDA 2016aおよびIMDA 2016bより筆者作成。

表2 2004年以前のシンガポール映画で過去10年の10位以内よりも興行収入が大きかった作品

英語タイトル	華語タイトル	日本公開時邦題 (カッコ内は日本未公開)	シンガ ポールでの 公開時期	監督	興行収入 (シンガ ポールドル)	全体 順位*
Money No Enough	錢不够用	(お金がない)	1998年5月	テイ・テックロック	5,800,000	n.d.
I Not Stupid	小孩不笨	僕、バカじゃない	2002年2月	ジャック・ネオ	3,800,000	4位
Liang Po Po-The Movie	梁婆婆重出江湖	(梁ばあちゃん、仁義なき世間へ再び)	1999年2月	テン・ビーリエン	3,032,000	n.d.
The Best Bet	突然発財	(突然金持ちになる)	2004年6月	ジャック・ネオ	2,664,000	n.d.

IMDA 2016aより筆者作成

表3 シンガポール居住者が家庭で最も頻繁に使用する言語：最終学歴別(2010年)

	全学歴合計		学歴なし		初等教育		中等教育		ポリテクニク等 ディプロマ		大学	
	使用者数	全言語合計に占める割合	使用者数	割合*	使用者数	割合*	使用者数	割合*	使用者数	割合*	使用者数	割合*
全言語合計	2,604,303	100.0%	387,098	14.9%	182,114	7.0%	1,060,125	40.7%	389,664	15.0%	585,301	22.5%
英語	735,870	28.3%	10,608	1.4%	12,052	1.6%	281,190	38.2%	147,537	20.0%	284,480	38.7%
華語	937,790	36.0%	107,849	11.5%	78,077	8.3%	411,512	43.9%	159,043	17.0%	181,309	19.3%
中国系方言	475,055	18.2%	202,867	42.7%	52,500	11.1%	146,320	30.8%	34,245	7.2%	39,122	8.2%
マレー語	305,568	11.7%	52,885	17.3%	31,354	10.3%	179,984	58.9%	30,405	10.0%	10,939	3.6%
インド系言語	120,180	4.6%	12,449	10.4%	7,985	6.6%	37,975	31.6%	14,627	12.2%	47,144	39.2%
その他	29,841	1.1%	439	1.5%	146	0.5%	3,145	10.5%	3,806	12.8%	22,305	74.7%

統計対象者は15歳以上の非学生。発話能力がない者、単身者世帯、家族・親族以外で構成される世帯は統計に含まれていない。

* 言語カテゴリー内での割合。例えば「学歴なし」の中国系方言42.7%は、家庭で中国系方言を最も頻繁に使用すると回答した者(475,055人)のうち42.7%が学歴なしであることを意味する。

Department of Statistics, Singapore 2011bより作成。

ジャック・ネオ監督は、シンガポール映画が「復活」した1995年¹⁾から今日に至るまで、シンガポールで持続的に興行収入を上げてきたシンガポール映画のヒット・メーカーである。その功績が認められ、2004年にはシンガポール首相府より社会奉仕メダル賞(Public Service Medal Award)を、2005年にはシンガポール国立芸術振興会(National Arts Council)より文化勲章(Cultural Medallion)を受賞している。シンガポールでネオの名を知らない人はいないだろう。しかし、ネオ監督の作品は、表1および表2でも明らかのように、日本ではほとんど上映されていない。本稿では、ネオ監督作品を中心に取り上げる²⁾。

「復活」後のシンガポール映画の主要テーマは、熾烈な競争社会においていかにして自己の居場所を見つけるかである。シンガポール映画が示してきた方策は、画一的な価値観で自他の成否を判断しない価値観の醸成であるといえる。シンガポールにおいて一般に「成功」とされるのは、国内外の名門大学に進学し、生産性の高い人材となり、高収入が見込める職に就くことである。シンガポールの教育制度では、小学4年生修了時の英語、母語、数学の成績に基づいて進路のシステマティックな振り分けが始まり、そのことが画一的な成否の判断材料となりがちな側面がある。これに対してシンガポール映画は、画一的な尺度では測れない

適性や能力に自らが気付き、その力を伸ばしていくことが重要であると訴えてきた。また、個々人が自らの適性や能力を伸ばしていくうえで、社会を構成する一人ひとりが画一的な価値観で自他の成否を判断するのではなく、柔軟で多元的な価値観を持つことが重要だと訴えてきた。このような中で、「復活」後のシンガポール映画は競争社会からこぼれ落ちた人たちを主人公とすることが多い³⁾。その潮流を形成する一つの大きな流れがジャック・ネオ監督作品である⁴⁾。

筆者はこのような文脈においてジャック・ネオ監督作品を紹介したことがあり[篠崎 2016]、その際に表1と表2の作品のうち『新兵物語』、『新兵物語2』、『僕、バカじゃない』、『僕、バカじゃない2』を取り上げた。本稿では、『お金がない2』を中心に『お金がない』シリーズを紹介する⁵⁾。

ネオ監督は1960年生まれで、中学卒業後はシンガポール国軍に入隊し、音楽・演劇隊でキャリアを積んでテレビの世界に入った。テレビ番組の代表作は、シ

1) シンガポール映画は1950年代から60年代に黄金時代を築いたあと、ほとんど製作されなくなった。しかし1995年のエリック・クー監督作品『ミーポック・マン(Mee Pok Man/薄面佬)』以降、国際映画祭で高い評価を得たり、興行的に成功する映画が作られたりするようになってきているため、「復活」を遂げたことしばしば表現される。

2) 表1中のロイストン・タン監督作品『881 歌え! パバイヤ』、およびケルヴィン・トン監督作品『すばらしき大世界』については、篠崎[2013]で紹介している。

3) 1995年以降、シンガポール映画を牽引してきたエリック・クー監督やロイストン・監督、タン・ピンピン監督などの作品も、社会の底辺に属する人たちや、競争社会から落ちこぼれた人たち、周縁化された人たちを扱っていることが指摘されている。このような視点からシンガポール映画を論じた議論に、Chua[2003; 2013]、Tan[2008; 2011]、篠崎[2013; 2016]などがある。

4) ジャック・ネオ監督作品の分析として、Chua[2003; 2012]、Tan[2008]などがある。

5) 本稿で扱わない『インストラクター、ボスに嫁ぐ』と『私のお役所時代』は、いずれもシンガポールの人気女優ファン・ウォン(Fann Wong/范文芳)が主演を務め、男女が逆転するような物語設定となっている。『インストラクター、ボスに嫁ぐ』は、自らを男性だと自認しているが、言動が女性的で自らの男性性に自信のないダンスのインストラクターが、黒社会を率いる若き女性ボスに嫁ぎ、女性ボスを支える物語である。『私のお役所時代』は、エリート女性官僚と役所で用務員として働く男性との体が入れ替わり、両者が協力しながら仕事と家庭の問題を解決していく物語である。『私のお役所時代』については、藤井(2010)の論考がある。

表4 シンガポール居住者が家庭で最も頻繁に使用する言語：年代別(2010年)

	合計		英語		華語		中国系方言		マレー語		インド系言語	
	回答者数	割合*	回答者数	割合*	回答者数	割合*	回答者数	割合*	回答者数	割合*	回答者数	割合*
全年代合計	3,399,054		1,097,443	32.3%	1,211,505	35.6%	487,031	14.3%	414,475	12.2%	151,000	4.4%
5～19歳	740,798		336,465	45.4%	248,415	33.5%	9,584	1.3%	109,267	14.7%	29,708	4.0%
20～64歳	2,349,173		721,163	30.7%	903,096	38.4%	310,156	13.2%	274,387	11.7%	110,650	4.7%
65歳以上	309,084		39,814	12.9%	59,992	19.4%	167,291	54.1%	30,819	10.0%	10,644	3.4%

統計対象者は5歳以上。発話能力がない者、単身者世帯、家族・親族以外で構成される世帯は統計に含まれていない。

* 同年代に占める割合。例えば5-19歳の英語の割合45.4%は、家庭で最も頻繁に使用する言語を英語と回答した5-19歳の回答者全体(740,798人)に占める割合。

Department of Statistics, Singapore 2011aより作成。

ンガポールの華語テレビ番組で最も長寿となった人気番組『お笑い行動(Comedy Night/搞笑行動)』(1990-2000年)である。同番組でネオ監督は司会・喜劇役者として活躍し、映画の世界に進出する基盤となった。

ネオ監督の映画との関わりは、1996年のエリック・クー監督作品『12階』に始まる。同作にネオ監督は俳優として出演し、中国から迎えた妻との関係が満たされない屋台主の悲哀をユーモアたっぷりに演じた。これに続き、1998年に『お金がない』で、また1999年に『梁ばあちゃん、仁義なき世間へ再び』で、それぞれ脚本を担当するとともに主演を演じた。これら二作品では、『お笑い行動』で共演してともに人気を博したマーク・リー(Mark Lee/李国煌)とヘンリー・ティア(Henry Thia/程旭輝)とのトリプル主演となった。「梁ばあちゃん」は『お笑い行動』から出てきたキャラクターだった。

『お金がない』は空前のヒット作となり、2011年までシンガポール映画の興行収入トップの座を維持した。その前作の遺産を引き継いで制作されたのが『お金がない2』である。

『お金がない』と『お金がない2』に登場人物のつながりはない。両作品ともネオ、リー、ティアが演じる中年の華人男性3人が主人公で、『お金がない』で3人は友人であるのに対して『お金がない2』では兄弟という設定になっている。しかし3人の人物造形には共通性がある。ティアが演じるのは、人は良いが機転は利かず、低学歴で英語を解さず、主に福建語を話し、配達人や屋台店員など高収入が見込めない職に就いている人物である。リーが演じるのは、ティアより機転は利くが学歴は低く、怪しげな事業に手を出して一獲千金を狙う人物である。事業の相手には黒社会の人物もおり、彼らが災いの元凶となる。黒社会の人物は台湾人という設定で、シンガポールの外から災いが呼び込まれる構図となっている。英語は解するが、基本的

に福建語と華語を話す。ネオが演じるのは、学歴はあまり高くないが機転が利き、たたき上げで事業を進展させてきた人物である。英語を解するがあまり得意ではなく、仕事においても家庭においても主に華語を使い、ティアやリーが演じる人物や母親とは福建語を話すこともある。

他のシンガポール映画同様、ネオ監督作品においても、登場人物が話す言語が社会階層を示す記号となっている。華人について言えば、英語や華語より方言を頻繁に話す者は、高齢者や学歴の低い層に多い傾向がある。家庭で最も頻繁に中国系方言を使用する者のうち42.7%が学歴をもたない(表3)。また、65歳以上の54.1%が家庭で最も頻繁に使用する言語を中国系方言としている(表4)⁶⁾。こうした社会の状況を反映するように、登場人物が使用する言語が相手や場によって設定される。映画の中で中国系方言を使う頻度が多い人物は、シンガポール華人社会の文脈に照らして低学歴者または高齢者として認識される。『お金がない』シリーズの3人の主人公はシンガポール社会において中下層の人物として描かれる。

『お金がない』と『お金がない2』は、タイトルに示されているように、いずれも金をめぐるコメディ映画である。コメディといってもその大部分はブラックなユーモアや皮肉、風刺である。人間のエゴや浅ましき、腹黒さが「人間たるもの、まさかそんなことまでしないだろう」と思わせるほどに極端に描かれる。極端であるがゆえに観客は笑えるが、同時に、映画で示されるエゴや浅ましき、腹黒さといった感情が自分とは無関係ではないことも自覚させられるのである。

シンガポールは豊かな都市国家であり、一人当たりGDPは2000年に約2万3,800米ドルに達し、2014年には約5万6,300米ドルに達した[Department of

6) 英語や華語を話せる者の中には、中国系方言を解する者もある。その数や割合は、表3および表4には反映されていない。

Statistics 2015]。両作品でネオ、リー、ティアが演じる主人公3人は、コンドミニアムに住み、高級車に乗り、ブランドファッションを身にまとい、最新の電気機器に囲まれて物質的な豊かさを享受することを成功だととらえている。そうした成功を学歴のない3人がつかむには、正攻法は使えない。収入に見合わない消費をしたり、簡単にうまい話に乗ったり、投機性の高い事業に賭けてみたり、マルチ商法に手を出したり、やくざまがいの高利貸しから金を借りたり、家族に罪をなすり付けてその場をしのごうとしたりする。

3人の男たちは自らの行為の結果、巨額の負債という罰を受けることになる。しかしその苦境をなんとか打開して、最終的には事業の成功や家族の修復、その中で価値観の変化などを経てハッピーエンドとなる。3人の男たちが最終的に輝いて終わるという点において、非エリート層が報われる作品となっている。

光が当てられるのは男たちだけではない。『お金がない2』では、男たちの娘や妻、母親が、男たちがもたらした災いを打開するうえで重要な役割を担っている。男が招いた災いの後始末を女が担うという展開は、男にとって都合のよい展開であり、男性中心の視点であると批判することもできる。他方で、女たちがなければ男たちは生きていけないという構図が示されていると見ることもできる。

『お金がない』シリーズでは高齢者がストーリー展開において重要な役割を担っている。シンガポールは東南アジアの中でも高齢化が進んでおり、2016年現在65歳以上人口の割合は12.4%である [Department of Statistics 2016]。高齢化するシンガポール社会を背景に、『お金がない』では病に倒れた年老いた母親の医療費を弟に押し付ける姉たちが描かれる。『お金がない2』では、認知症の症状が現れ始めた年老いた母親の面倒を誰が見るのかをめぐる交渉が描かれる。年老いた母親は「お荷物」のように描かれるが、最後に家族を救うのは年老いた母親である。

『お金がない2』の3人の主人公の男たちは、自分の運命を自分でコントロールしていると自負しており、時に利己的にふるまう。しかし、3人は窮地に陥ることで自分が周囲に生かされていたことに気づく。社会はそれぞれが役割を担うことで成り立っており、豊かで物質的に恵まれた成功を手に入れることが人生のすべてではないという教訓が、『お金がない2』でわかりやすく提示されている。

参考文献

- 篠崎香織 2013 「シンガポール：『成功』を支えるさまざまな思いを掬い採る」『地域研究』13(2)、323-329。
- 篠崎香織 2016 「競争社会での居場所探しとしてのシンガポール映画：アーベンと『兄弟』の物語」山本博之・篠崎香織編『たたかうヒロイン——混成アジア映画研究 2015』(CIAS Discussion Paper No.60) 京都大学地域研究統合情報センター、74-87。
- 藤井省三 2010 「現代シンガポール家族像における非婚とセックスレス：陳華彪小説集『スーパー・チェーン・ボーイの物語』と梁智強監督映画『私のお役所時代』をめぐって」『中国語中国文化』7、184-193。
- Chua, Beng Huat, 2003, *Life is Not Complete Without Shopping: Consumption Culture in Singapore*, Singapore: Singapore University Press.
- Chua, Beng Huat. 2012, *Structure, Audience and Soft Power in East Asian Pop Culture*, Hong Kong: Hong Kong University Press.
- Department of Statistics, Singapore. 2011a. "Table 47: Resident Population Aged 5 Years and Over by Age Group and Language Most Frequently Spoken at Home", Department of Statistics, Ministry of Trade & Industry, Republic of Singapore, 2011, *Census of Population 2010*, 139.
- Department of Statistics, Singapore. 2011b. "Table 55: Resident Non-Students Aged 15 Years and Over by Language Most Frequently Spoken at Home, Highest Qualification Attained and Sex", Department of Statistics, Ministry of Trade & Industry, Republic of Singapore, 2011, *Census of Population 2010*, 149.
- Department of Statistics, Singapore. 2015. "Time Series on Per Capita GDP at Current Market Prices", Last updated: 17 Feb 2015, <https://www.google.com/url?q=https://www.singstat.gov.sg/docs/default-source/default-document-library/statistics/browse_by_theme/economy/time_series/gdp.xls&sa=U&ved=0ahUKEwjXl6a91JjQAhUNNbwKHb5cBD0QFggHMAE&client=internal-uds-cse&usg=AFQjCNGEm0VPRzw1pa7kkYe-gK_l5UOiw>.
- Department of Statistics, Singapore. 2016. "M810611 - Key Indicators On The Elderly, Annual", Last updated: 12 Jan 2016,
- Hong, Xinying. 2011. "Jack Neo", Singapore Infopedia (an electronic encyclopedia on Singapore published by the National Library Board, Singapore), <<http://eresources.nlb>>.

gov.sg/infopedia/articles/SIP_1622_2009-12-31.html?s=jack%20neo.>

IMDA, 2016a, “List of Singapore Movies 1991-2015, (as at March 2016)”, website of Info-communications Media Development Authority, Singapore, <<https://www.imda.gov.sg/~media/imda/files/industry%20development/sectors/media/1%20%20box%20office%20information%20for%20singapore%20films%2019912015.pdf?la=en>>

IMDA, 2016b, “Singapore’s Top 10 Grossing Movies by Year From 2003”, website of Info-communications Media Development Authority, Singapore, <https://www.imda.gov.sg/~media/imda/files/industry%20development/sectors/media/3%20%20singapores%20top%2010%20grossing%20movies%20by%20year%20from%2020032015.pdf?la=en>.

Tan, Kenneth Paul. 2008. *Cinema and Television in Singapore: Resistance in One Dimension*, Leiden: Brill.